

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470200938		
法人名	社会福祉法人 青山里会		
事業所名	四郷グループホーム		
所在地	三重県四日市市西日野町小溝野4014		
自己評価作成日	令和2年7月15日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JizyosvoCd=2470200938-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和 2 年 10 月 21 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホーム周辺は、春は桜が咲き、秋にはイチョウ並木が紅葉する自然と、中学校・高等学校、住宅がある。同敷地内には、在宅介護支援センター・デイサービス・ヘルパーステーション・サテライト特養があり、合同で防災訓練を行い、非常時に協力体制が取れるようにしている。ご利用者がその人らしく笑顔で暮らせるよう、お一人おひとりに合ったケアを行うことを心掛け、「一人一人を尊重し笑顔あふれる家」を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍が続く中、介護現場でも制限が数多くあり苦戦が強いられており、利用者にとって楽しみな家族の面会がない、外出も控えざるを得ない状況である。そのような中でも、この事業所では建物の脇の花壇に季節の花を咲かせ、野菜を作って水やりや収穫を楽しんでいる。中庭に出て外気に触れて、暑い・寒いなどの五感を刺激する支援が実践されている。敷地内は同一法人が運営する介護福祉施設が揃っており、協力体制が整っている。2ユニットは平屋づくりで、事務所を中心に左右に分かれているが、利用者はいつでも行き来して18人が一体となった支援が実践されている。ばらのユニットはリビングから外れた窓際の隅に、テーブル・椅子・テレビが置かれたコーナーがあり、好きなように過ごせるようになっている。元気そうな利用者が穏やかに暮らしているのが伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人一人を尊重し笑顔あふれる家」を理念に掲げ、ご利用者がその人らしく楽しく生活できるよう、一人一人に目を向け、管理者・職員間で情報共有を行っている。	何事にも、利用者一人一人が自己決定し、その結果、笑顔になれるように支援し、職員間で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	数名のご利用者が地域の行事(文化祭)に参加したが、日常的な交流はなく、努力が必要である。現在はコロナウイルス感染症予防の為地域行事への参加は見合わせている。	コロナ感染防止のため、地域との付き合いはできない状況にある。コロナ禍の前には、地域との付き合いもしており、収束すれば引き続き交流も始めたい意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護実習生を受け入れ、認知症の理解と支援について知ってもらう機会を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当施設の取り組みや介護事故の報告を行い、様々なご意見やご指摘をいただき改善出来る所は改善している。現在はコロナウイルス感染症予防の為、4月から中止している。	本年度は、4月以降会議は中止している。事業所の状況などは引き続き行政と推進委員へ送付をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から密に連絡を取る関係性はないが、運営推進会議の場を活用している。様々な情報や研修の案内は継続していただいている。	市の担当者には電話で、制度のことなどで分からないことがあれば聞いている。生活保護の方の利用がある。母体の法人を含め行政との連携は密である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人としての研修と四郷施設内の研修を行っている。身体拘束廃止委員会やミーティング時にも、どのようなものが身体拘束に当たるのか、どのようなケアを行っていったらよいか考え、話し合い身体拘束廃止の取り組みを行っている。	コロナ禍で集合した研修会は難しいので、DVDを使って、見て・どう思ったかをレポートにして提出している。本年秋からは、法人でオンライン研修が始まっている。玄関は、職員体制が手薄になる時以外は施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人としての研修と四郷施設内の研修を行っている。虐待防止委員会やミーティング時にも、どのようなものが虐待に当たるのか、行っていないか確認し、注意と防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を利用しているご利用者がおられ、制度を学ぶ機会を得られている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の訪問時や入所時の契約の際、十分に時間を取り、疑問や不安などにお答えさせていただき、後日でも遠慮なくお話しいただけるよう説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見を記入いただける用紙を用意している。電話や面会時に頂いた、ご意見に対して、ミーティング等で話し合い改善するようにしている。	現在、家族の面会は中止している。その代わりに毎月、家族へ担当職員が近況報告を書きスナップ写真を同封して送付している。以前、家族から伝達がうまくできていなかったとの苦情があり、改善を図った。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りや毎月のミーティングで意見や提案を聞き、管理者から本部事務所の関係部署に報告・相談を行っている。	朝と夜勤者との申し送り時に意見や提案が出され、検討をしている。最近では、利用者の体調管理や衣類についても意見が多く出され、衣類等交換の願いを家族へ連絡をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内の他グループホームとの運営推進会議の場で代表者と管理者が直接話し、職員の現状を報告・相談している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は報告書の提出で把握している。研修受講の決定は管理者の推薦や職種部門長の推薦や命令となっており、職員に必要な研修が受けられるようになっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に出席することで同業者との交流の場になっている。3月以降、法人内外の研修は延期や控えていたが、現在は必要な研修は対策を取って参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の訪問調査時にご本人の思いや状況を出るだけ把握し、職員はケース記録を読み情報共有を行っている。ご利用者が入所される際には、笑顔で接し不安の解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の施設見学時や訪問調査時に不安や疑問等、安心して話をさせていただけるよう、ご家族の話に耳を傾けるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族との話やご希望から、必要なサービスが外部のサービスとなる時には、説明や提案を行い、必要時には業者にも連絡を取っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者と一緒に家事などを行い日常生活を過ごすことで、もう一人の家族として、時には友人となったり、少しずつ信頼関係を築いていけるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調の変化や身体の変化に気づいた際には、ご家族と連絡を取り、今後のケアについてご家族と相談しながら、一緒にご利用者を支える関係を築けるよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人、ご近所の方の訪問を歓迎している。コロナウイルス感染症予防対策が取られるようになってからは、面会できない代わりに、電話を利用してもらっている。	コロナの感染が始まるまでは、友人や近所の方が訪ねてくれることもあったが、今だ、コロナ感染拡大が続いているため、面会は断り、自由に外出もできない状況である。利用者が希望すれば電話を使えるよう便宜を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士が手助けし合うところを職員は見守り、必要時には手助けを行っている。ご利用者同士が助け合えるような支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じて連絡や相談を行っている。入所した施設に伺ったり、入所先の職員の方から状況を聞き、把握するようにしている。ご家族から、その後の様子を伝えていただくこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所されるまでの生活歴、生活習慣を把握し、今までの暮らしに近い生活を当施設でも継続していけるようご家族とも相談し、環境を整える等、ご希望に添えるよう努力している。	思いや希望は直接本人に聞いて把握に努めている。午前中のティータイムでは、一人一人のそばに寄り添って、お好みの飲み物を聞いて注文を受けている。これは、毎日の日課となっているが、選択することの大事さを実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、ご本人やご家族から、聞き取り、把握できるよう会話をもっている。担当ケアマネジャーや施設職員からも情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の生活の様子、健康状態は毎日個人記録に記入し、職員は出勤時に記録に目を通し、申し送りを行い把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者の希望、ご家族の意向を聞き、計画作成者以外の職員にも情報や意見を聞きながら、ご利用者本位の計画によるようにしている。	アセスメント(13項目)で家族等から希望を聞き取り、管理者・介護支援専門員と計画作成担当者、夜勤者も入ってカンファレンスを行い、介護計画書が作成されている。短期目標目標を3か月、長期目標を6か月に決めている。モニタリングは介護専門員と作成担当者で行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中での気づきや気になったこと等を個人記録に記入し、必要な対応やケアの改善をミーティングや日常の中で話し合い、試みながら、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急に体調を崩されたご利用者の受診の対応や、必要物品の購入代行等のサービスの提案を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の文化祭に参加したり、近所の公園にお花見に行ったり、同敷地内の施設で開催される催し物に参加していたが、現在は敷地外への外出難しく、継続が困難になっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及びご家族が希望される医療機関をかかりつけ医とし、受診時の報連相を行い、往診の際は付き添いを行い、医療機関との関係づくりを行っている。	全員が入居以前からのかかりつけ医に診てもらっており、受診は家族がしている。1名、家族の意向で訪問診療を受けている。職員が毎日バイタルチェックをしており、母体は社会福祉法人青山里会で安心した体制である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者のかかりつけ病院の看護師や同敷地内の看護師に相談を行ったり、必要であれば様子を診ていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、ご家族や入院先の病院関係者と連絡を取り合い、関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人とご家族の意向を確認し、可能な限り当施設で過ごしていただける間は過ごしていただく。ご本人の進行状況等を考慮し、介護施設への入所や入院等の方法・選択肢の説明も行っている。	要望があれば看取りも考えているが、母体が社会福祉法人青山里会で、老健や特養など介護福祉施設が充実しており、利用者が望むことを配慮しつつ、最善の方法で対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修やミーティング等で緊急時の対応について学ぶ機会を得ている。不明な事や疑問点は同敷地内の他施設の看護師に尋ねたり相談をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同敷地内の他施設と合同避難訓練や通報訓練を行い、協力体制を築いている。	本年10月に昼間の火災発生を想定して、通報・初期消火・避難訓練を実施した。例年、同一敷地内の各事業所と協力体制を組んだ訓練をしている。備蓄は各ユニットで用意をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者は人生の先輩として尊重し敬意を持って声をかけ、接している。不適切な言葉かけや対応についてミーティング等で、話し合っている。	適切ケアを研修で学んでいる。排泄時の誘導、声掛けには気を付けている。高齢になれば聞こえにくくなり、大声で伝えるのではなく、筆談を使って会話をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が日常生活のなかで少しでも多く自己決定ができるよう、声掛けや対応の工夫、言いやすい雰囲気となるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事や日々のレクリエーションにお誘いはするがご本人の意思を尊重し、出来るだけご利用者の意思に沿って、ご自分のペースで過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着換えの際はご本人に洋服を選んでもらい、時々、お化粧品やマニキュアを楽しんでもらっている。ご自分でできない方には職員が整容を気にかけて手助けをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から後片付けまで、出来る所を行ってもらったり、ご利用者と一緒に行ったりしている。好き嫌いのある方には、出来る限り食べていただけるよう代替え品等で対応するなどの工夫をしている。	コロナ禍が始まって買い物に行けなくなり、食材は宅配業者に委託している。献立も業者で作られるが、調理は各ユニットごと別々に作っている。誕生日や敬老の日などに利用者の好みを聞いて特別食が提供されている。おやつもおはぎやふかしたさつまいもなどが出されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食記録し、水分はこまめに摂ってもらっている。摂取量が低下している場合は、好きな物を積極的に摂っていただいたり、医療機関と連携を取り、補助食品など摂っていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアをしていただけるよう、声をかけている。必要に応じ介助させてもらっている。7月から訪問歯科診療を利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりのペースに合わせ声をかけたり、誘導している。身体機能が低下してきても安易に紙パンツやパット、紙おむつで対応しないよう職員で話し合っている。	布パンツ使用の利用者が多く、全員がトイレでの排泄をしている。夜間にポータブルトイレを利用する方が1名ある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめに水分摂取し、適度な運動を行っている。ヨーグルトや、乳酸菌飲料、バナナなど、便秘に良い物を摂っていただいけるよう心掛けている。必要に応じ便秘薬を服用してもらうこともある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望や体調に合わせて、順番を相談したり、翌日に変更するなどして入浴していただいている。	入浴は一日おき、午後の時間帯に実施をしている。浴槽は埋め込み式になって、手すりが左右両方であり安全が図られている。職員と1対1になれる時でもありゆっくと会話も楽しめる。ゆず湯・菖蒲湯・入浴剤も変えて楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間を決めて休まれる方や、眠たくなったら休まれる方、それぞれご自分のペースで休まれている。日中も居室やリビングで自由に静養していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬剤情報提供書をファイルし、その都度確認できるようにしている。薬の変更時には体調の変化など、職員間で情報共有を行い対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、洗濯たたみ、ゴミ捨てや料理の盛り付けなどの家事や、季節の作品作りやパズル、色塗りなどの余暇活動もご利用者それぞれが望まれたものを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常生活の中では、洗濯物干しやゴミ捨て、外気浴や散歩に出かけている。季節によりお花見や同敷地内のデイサービスでの催しにも出かけている。受診や美容院、外食などご家族とも出かけていただけるよう連携を取っている。3月以降は敷地外への外出は受診以外できていない。	コロナ禍で外出支援ができないが、花壇の水やりや野菜の収穫、また、ごみ捨てなどで外に出ることはある。気候がよいと、駐車場付近まで外気に触れに出ている。美容院は行けないので、訪問カットを3か月に1回利用している。	コロナ禍が収束した暁には、ぜひ、外出支援を実現されるよう期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は当施設では行っていない。ご家族と相談し、ご本人管理でお金や財布を持たれているご利用者もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があった時はかけてもらっている。ご家族やご友人からかかってきた電話に出られることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先で季節の花や野菜を育てたり、季節の作品と一緒に作成しリビングに飾ったり、好みの音楽をかけたたり、家庭的な雰囲気となるよう心掛けている。室内の温度調整に気を付けている。	季節を感じてもらう支援に努めている。壁には日頃の利用者の様子が写った写真が所狭しと飾られている。リビングはテレビが置かれ、顔を見ながら談笑する皆の居場所である。ばらのユニットでは、窓際の離れた場所にテーブル・椅子・テレビが置かれ、自由にくつろげるスペースがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者一人ひとりの性格やご利用者同士の関係性などを把握し、テーブルや座席の配置を考慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族の希望の家具や家電が持ち込める。馴染みの家具や使い慣れたものを持参していただき、居心地よく過ごせる空間づくりを行っている。	テレビやラジオ、小型の整理ダンスや椅子などが持ち込まれている。自作のぬりえや家族との写真を飾ったり、思い思いの居室になっている。各居室には洗面台が設備してある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室やトイレは、わかりやすいように掲示し、トイレの電気は消さずにつけたままにするなど工夫している。		